学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	オフィスICTワークⅡ（PPT、ACCESS）		（ TDB102）
講義名（コード）	オフィスICTワークⅡ（PPT、ACCESS）		（ TDB102）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	2単位
授業担当者	松橋　茉蓉	時間数	30時間
成績評価教員	松橋　茉蓉	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	選択
実務者教員特記欄	業務において実際に使用した経験がある	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	Microsoft Office　Word・PowerPointの主たる機能を習得するだけでなく、視覚的にもわかりやすい資料を作成する技術を身に付ける。（前期はWord/Powerpoint、後期にExcel/Accessを行う） E-typing（https://www.e-typing.ne.jp）でスコア250点以上。
全体の内容と概要	Microsoft Office　Word・PowerPointの機能習得及び効果的なページレイアウトを実現するためのフォント知識やレイアウトデザイン知識を扱う。ネットや生成AIなどを使い操作を確認しながら自力での解決を目指し、その後、講師の説明を受け適切な操作方法を学ぶ。
授業時間外の学修	入力に不慣れな場合は、授業外にタイピングソフトを活用し、正確なタッチタイピングを習得できるよう練習を行う。 授業時の課題について不得手な部分は再度時間外に復習をして技能の習得に努める。
履修上の注意事項等	一斉の授業の場面と、操作技術力別の課題に取り組む場面がある。特に技術力別に取り組む場面では不明点に関しては積極的に質問し、即時解決を心掛けると共に、授業外にて練習し技術向上を心掛けること。 officeのバージョンによって、若干操作に誤差が出る場合がある。 デジタル・ビジネスコースの学生は必ず自分のPCにアプリをインストールすること。（Web版では十分な機能が学べません）。特にMacの方は、仮想マシン(Parallels Desktop等)を用意し、officeが動作する環境を事前に用意すること。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。			
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	エクセルの基本をマスター① Excelの基本操作	Excelとは何か？、画面構成と用語の理解（セル、シート、ブックなど）、 ファイルの新規作成・保存・開く、データの入力と編集、オートフィルとコピー＆ペーストの活用、表の印刷設定の基本
2	エクセルの基本をマスター② セルとデータの操作	行・列・セルの挿入と削除、セルの書式設定（文字サイズ、色、罫線など）、数値・日付・文字列の取り扱い、データの並べ替えとフィルター、条件付き書式の使い方
3	エクセルの基本をマスター③ 数式と関数の基礎	数式の基本ルール（=、四則演算）、絶対参照と相対参照、よく使う基本関数（SUM, AVERAGE, MAX, MIN）、IF関数の基礎、COUNT系関数（COUNT, COUNTA, COUNTIF）
4	エクセルの基本をマスター④ 表とデータの見せ方	表の作成と整形、セルの結合・中央揃え・見栄えを整えるコツ、データの視覚化：グラフの基本（円、棒、折れ線）、グラフの編集とカスタマイズ、スパークラインの使い方
5	エクセルの基本をマスター演習	総合演習：家計簿を作ってみよう
6	エクセルの応用をマスター① 実務で使える関数・テクニック	VLOOKUP・XLOOKUPの基本と実用例、IF関数の応用（ネスト、AND・ORとの組み合わせ）、TEXT関数と日付関数の活用、データの重複チェックと抽出、複数条件のCOUNTIFS・SUMIFS
7	エクセルの応用をマスター② データ集計と分析	ピボットテーブルの基本操作、ピボットテーブルでのグループ化と集計、スライサーを使ったデータの視覚的操作、データの整理術：テーブル機能の活用、名前定義と範囲指定の応用
8	文章の応用をマスター③ 効率化のための時短術	ショートカットキーの活用法、データ入力規則（ドロップダウンリストなど）、フラッシュフィルとテキストの分割、複数シートの同時操作、印刷設定のカスタマイズ（改ページ、印刷範囲）
9	エクセルの応用をマスター演習	総合演習：顧客リストの管理と分析
10	Excelマクロ入門	マクロとは何か？、マクロ記録の基本操作、実際にマクロを記録してみよう（例：表の整形）、記録されたマクロの確認方法（VBAエディタを開く）、マクロの実行方法（ボタン、ショートカットキー）、マクロ記録の注意点と限界
11	VBAコード入門①	VBAとは何か？VBAエディタ（VBE）の使い方、Subプロシージャの構造、 基本的な命令文（Range, Cells, Select など）、コメントとインデントの使い方
12	VBAコード入門② 簡単なマクロを書いてみよう	セルに値を入れるマクロ、メッセージを表示するマクロ（MsgBox）、複数セルを一括処理する（ループの簡単な例）、選択範囲に書式を設定する、条件によって処理を変える（If文の基礎）
13	VBAコード入門③ 実務で使えるマクロ例	表の書式を一括で整える、複数のシートに同じ処理を行う、データの最終行に自動で追加、日付ごとのファイル保存（名前を付けて保存）、フォームボタンを使ったマクロの実行
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	PDF教材
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	情報リテラシーⅡ（DB）		（TDB104）
講義名（コード）	情報リテラシーⅡ（DB）_ITパスポート		（TDB104）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	1単位
授業担当者	福井　琢也	時間数	30時間
成績評価教員	福井　琢也	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	情報処理技術者試験のITパスポート試験シラバスV6.3に対応した内容を身に付けることを目的とし、また本授業終了後に、本試験に合格することを到達目標とする。
全体の内容と概要	ITパスポート試験に必要な、ストラテジ系とマネジメント系(春学期)、テクノロジ系(秋学期)の知識をインプットして、問題集で知識をアウトプットする。
授業時間外の学修	授業で学んだ知識(教科書)を整理すること、また問題集を何度も解きなおすこと。
履修上の注意事項等	

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。			
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	確認テスト提出	基礎理論１回目（離散数学/応用数学/情報理論）
2	確認テスト提出	基礎理論２回目（離散数学/応用数学/情報理論）
3	確認テスト提出	アルゴリズムとプログラミング1回目（データ構造）
4	確認テスト提出	アルゴリズムとプログラミング2回目（アルゴリズム）
5	確認テスト提出	アルゴリズムとプログラミング3回目（プログラム言語）
6	確認テスト提出	システム（処理形態/利用形態/性能と信頼性)
7	確認テスト提出	ハードウェア（コンピュータ/記憶装置/入出力装置)
8	確認テスト提出	ソフトウェア（OS/ファイルシステム/オフィスツール/その他）
9	確認テスト提出	データベース（方式/設計/処理機能）
10	確認テスト提出	ネットワーク１回目(方式/通信プロトコル/応用）
11	確認テスト提出	ネットワーク２回目(方式/通信プロトコル/応用）
12	確認テスト提出	セキュリティ1回目(情報セキュリティ/情報セキュリティ管理・対策）
13	確認テスト提出	セキュリティ2回目(情報セキュリティ/情報セキュリティ管理・対策）
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試験実施

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ITパスポート教科書＆問題集　2025年度版　（TAC出版情報処理試験研究会）
参考文献・資料等	その他資料については、適宜掲示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	情報リテラシーⅡ（DB）		（TDB104）
講義名（コード）	情報リテラシーⅡ（DB）_通信基礎		（TDB104）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	DB1	単位数	2
授業担当者	伊藤/南/奥村	時間数	30
成績評価教員	佐藤	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	インターネットを含む通信技術の基礎を学ぶ　有線通話から無線wifiまでのネットワークの基礎理解をベースに、通信のイノベーションをどう新事業やサービスに活かすかを考えられるようになる。
全体の内容と概要	NTTｸﾞﾙｰﾌﾟ関係者による通信の歴史、仕組みをオムニバス形式で学ぶ。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	前期の復習と技術内容全体を俯瞰して
2	インターネットの形、外部プロトコルを学ぶ	インターネットの形、外部プロトコル
3	VPN,レイアモデルを知る	DNS, ルートサーバ, 他サーバサービス（NTP等）
4	ルーティングとデータセンターの役割を理解する	IXとデータセンタ、キャッシュ
5		データセンタからクラウドへ
6	過去4回の授業の再整理と疑問点の解消を図る	過去4回の授業の再整理と疑問点の解消・オンライン教材使用
7	セキュリティ、認証、暗号化を理解する	セキュリティと認証、暗号化 不正アクセス、ハッキング、アタック VPN、優先制御
8	5G技術の進化をまなぶ	最新世代５Gのネットワーク技術とさらなる進化 ５G ネットワーク 技術，ローカル５G/ 無線 LAN, ５G Evolution/6G
9	５Gの応用事例を知る、さがす	５Gを応用する各種ソリューション 多様な領域における応用事例を実証実験模様により紹介
10	５Gの応用提案をグループで議論して考える	「５Gの実用アイデア」検討のWorkshop-1 (TBL Venture Pitch申請)
11	5Gの応用提案をグループで作成する	「５Gの実用アイデア」検討のWorkshop-2
12	5Gの応用提案をグループで発表する	「５Gの実用アイデア」発表会1
13		「５Gの実用アイデア」発表会2
14		期末評価
15		追試

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	参考資料「５Gの本（電気書院）」
備考	

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナーⅡ（DB）		TDB106
講義名（コード）	ビジネスマナーⅡ（DB）		TDB106
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	デジタルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	松橋 茉蓉	時間数	30
成績評価教員	松橋 茉蓉	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

到達目標・目的	国際力・人間力における社会人教育分野の学びの中で、学生が自己理解管理能力向上の基礎を理解し、ビジネスマナーの知識習得、及び演習を通してビジネス社会の基本ルールを理解できるようになる。
全体の内容と概要	オフィスの常識と心構え「社会人基礎力」「ヒューマンスキル」を学ぶ。職場における基本的な知識を学び、ビジネスパーソンとしてのマナーや実践力を身につける。自己の考えを表現する力や他社とのコミュニケーション能力を育てる。
授業時間外の学修	復習課題としてレポートの提出を求めることがある。
履修上の注意事項等	学生の希望等により授業スケジュールは変更する場合がある。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	就活のマナーについて考えることができる	①担任面接（全員）　②就活のマナー　③一週間の振り返り
2	就活のマナーに則って行動できる	①担任面接（全員）　②就活のマナー　③一週間の振り返り
3	身だしなみについて自ら考えることができる	①敬語の練習　②「身だしなみ」　③キャリア面接（指定）　④一週間の振り返り
4	日本のビジネス文化について自ら考えることができる④	①敬語の練習　②「話を聞くとき」のマナー　③キャリア面接（指定）　④一週間の振り返り
5	グループワーク①	①敬語の練習　②グループワーク　③一週間の振り返り
6	グループワーク②	①敬語の練習　②グループワーク　③一週間の振り返り
7	グループワーク③	①敬語の練習　②グループワーク　③一週間の振り返り
8	日本のビジネス文化について自ら考えることができる⑤	①敬語の練習　②「時間厳守」　③一週間の振り返り
9	日本のビジネス文化について自ら考えることができる⑥	①敬語の練習　②「就業時間」　③一週間の振り返り
10	日本のビジネス文化について自ら考えることができる⑦	①敬語の練習　②「話の進め方」③一週間の振り返り
11	日本のビジネス文化について自ら考えることができる	①敬語の練習　②「指示を受けたとき」　③一週間の振り返り
12	面接を受けることができる	①敬語の練習　②面接の練習　③一週間の振り返り
13	面接を受けることができる	①敬語の練習　②面接の練習　③一週間の振り返り
14	期末試験	期末試験（内容は未定）
15	期末試験解説	①期末試験解説　　②1年の振り返り

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	『ビジネスマナーとルール』『就活・仕事のにほんごシャドーイング』
備考	

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
シラバス

1．本授業科目の基本情報

講義名（コード）	TDB108	キャリアデザインⅡ（DB）	
科目名（コード）	TDB108	キャリアデザインⅡ（DB）	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	2単位30
授業担当者	松橋 茉蓉	時間数	
成績評価教員	松橋 茉蓉	講義期間	秋期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄			

2．本授業科目の概要

到達目標・目的	希望する進路に応じてグループごとにインターンシップやオープンキャンパスなどに主体的に参加し、調査発表する。
全体の内容と概要	日本社会を知り、自身の興味と照合させ、自らが目指す業界や職種・企業を決めることを行う。
授業時間外の学修	日本の企業文化を知り、海外との雇用環境の違いを理解しつつ学校卒業後の進路について主体的に調査・研究し具体的な行動をすることができるようにする。
履修上の注意事項等	進捗の状況により変更する場合があります。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

	評価	評価基準	評価内容
成績評価基準	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	後期授業の方針説明/今後の就職活動/進学活動スケジュールの確認/進路希望調査/外国人留学生は特定技能１号（外食）マイページ登録
2	後期の目標進捗発表	前期に立てた自己の目標の進捗を振り返る。進路希望ごとに集まり「あるべき姿」について話し合う。
3	進学についての理解を深める	3年次編入のスケジュール、応募条件、海外留学への準備スケジュール
4	自己理解	自己理解ツール（エゴグラム）を活用して自身の性格的特徴、得意分野を知る。グループ毎に集まり自分の特徴について発表する。
5	生成AIを自己PR作成に活用する。	生成AIを活用して自己PRを作成する。自分の性格的特徴や長所、エピソード（インターンシップ、アルバイト、ボランティアほか）をプロンプトに書いて発表。
6	起業について知る	グループごとに企業のメリット、リスクについて調べ発表する。外国人留学生は「経営・管理」ビザについて調査する。
7	就職活動の選考試験①	面接選考の種類（グループ面接、個人面接）、筆記試験の種類、エントリーシート、自己PR動画について調べる。代表者が模擬面接を受けて全員で振り返りを行う。
8	業界研究・求人票の見方	企業研究・業界研究をおこない自己の将来の進路選択の一助とする。就職支援アプリ（マイナビなど）の登録
9	履歴書作成①	学校指定履歴書用紙に記入する。パソコンを使用してもよい。学歴・職歴欄の作成。添え状（送付状）の書き方・（職歴がある場合）職務経歴書の書き方
10	履歴書作成②	自己PR文作成・志望動機の作成
11	就職活動の選考試験③	グループディスカッション対策。金魚鉢方式により代表者がグループディスカッションを行い、全員で振り返りを行う。
12	外国人留学生のための在留資格ガイダンス/就活キックオフ	外国人留学生のための在留資格、就職活動の進め方/就活早期化に伴う注意点・総括
13	キャリアガイダンス	就職活動早期化に伴う自己管理、スケジュール管理を行う。キャリアデザイン授業の総復習。
14	期末試験	履歴書作成
15	追試・フィードバック	Feedback

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	外国人留学生のための就職ガイド（日本学生支援機構）
備考	

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	文書理解Ⅱ（DB）		（TDB122）
講義名（コード）	文書理解ⅡA（DB）		（TDB122A）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	2単位
授業担当者	川本　千陽	時間数	30時間
成績評価教員	川本　千陽	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の４択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。			
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	長い文章の意味をつかむ	パワードリル文字語彙N2 読解　中文
2	長い文章の意味をつかむ	パワードリル文字語彙N2 読解　長文
3		演習問題
4	読解の攻略方法を身につける	パワードリル文字語彙N2 読解　演習形式
5	読解の攻略方法を身につける	パワードリル文字語彙N2 読解　演習形式
6	読解の攻略方法を身につける	パワードリル文字語彙N2 読解　演習形式
7	読解の攻略方法を身につける	パワードリル文字語彙N2 読解　演習形式
8	JLPT模試　N2　読解＆解説	JLPT模試　N2　読解＆解説
9	JLPT模試　N2　読解＆解説	JLPT模試　N2　読解＆解説
10	読解の攻略方法を身につける	パワードリル文字語彙N2 読解　演習形式
11	文章を書く力をつける	パワードリル文字語彙N2 文章の表現技法
12	文章を書く力をつける	パワードリル文字語彙N2 文章の表現技法
13	文章を書く力をつける	パワードリル文字語彙N2 文章の表現技法
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	必修パターン読解N2　パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	文書理解Ⅱ（DB）		（TDB122）
講義名（コード）	文書理解ⅡB（DB）		（TDB122B）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	丹治　理恵	時間数	30時間
成績評価教員	丹治　理恵	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の４択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。			
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフ、比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step１　Level ２　練習問題８日目
2	図・表・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step１　Level ２　練習問題９日目
3	図・表・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step１　Level ２　練習問題１０日目
4	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step２　Level ３　⑦
5	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step２　Level ３　⑧
6	文法・接続詞・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step２　Level ４　１１日目
7	文法・接続詞・表理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step２　Level ４　１２日目
8	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step２　Level ４　１３日目
9	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step２　Level ４　１４日目
10	JLPT模試	JLPT模試　N2　読解解説
11	JLPT模試	JLPT模試　N2　読解解説
12	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step２　Level ４　１５日目
13	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2　Step２　Level ４　１６日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2　パワードリルN2　文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化コミュニケーションⅡ（DB）		（TDB124）
講義名（コード）	異文化コミュニケーションⅡA（DB）		（TDB124A）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤　聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤　聖子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の４択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組むことで、しっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。			
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解　ポイント理解１９～２２ TRY!N2文法
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解　概要理解２３～２６ TRY!N2文法
3	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解　概要理解２７～３０ TRY!N2文法
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解　即時応答３１～３９ TRY!N2文法
5	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解　即時応答４０～４８ TRY!N2文法
6	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解　統合理解４９～５２ TRY!N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解　統合理解５３～５６ TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解　模試問題 TRY!N2文法
9		JLPT模試
10		JLPT模試
11	総合的な聴解力を身につける。	必修パターンN2聴解　模試問題 TRY!N2文法
12	総合的な聴解力を身につける。	後期のまとめ
13	総合的な聴解力を身につける。	後期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	必修パターンN2　聴解 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化コミュニケーションⅡ（DB）		（TDB124）
講義名（コード）	異文化コミュニケーションⅡB（DB）		（TDB124B）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB2	単位数	2単位
授業担当者	近藤　聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤　聖子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の４択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組むことで、しっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。			
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解　ポイント理解１９～２２ TRY!N2文法
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解　概要理解２３～２６ TRY!N2文法
3	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解　概要理解２７～３０ TRY!N2文法
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解　即時応答３１～３９ TRY!N2文法
5	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解　即時応答４０～４８ TRY!N2文法
6	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解　統合理解４９～５２ TRY!N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解　統合理解５３～５６ TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解　模試問題 TRY!N2文法
9		JLPT模試
10		JLPT模試
11	総合的な聴解力を身につける。	必修パターンN2聴解　模試問題 TRY!N2文法
12	総合的な聴解力を身につける。	後期のまとめ
13	総合的な聴解力を身につける。	後期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	必修パターンN2　聴解 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ITビジネス演習Ⅱ		(TDB127)
講義名（コード）	ITビジネス演習Ⅱ		(TDB127)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島涼輔・外部講師	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	DX、スマートシティ、AI等のデジタルの基礎知識について、外部企業の最前線の事例を基に体系的に学習する
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	前期の振り返り	・シラバス説明 ・前期の振り返り
2	スマートシティの基礎知識の体得	・スマートシティ概要
3	同上	・フォークオリア概要 ・会津若松市/下関市の取り組み紹介
4	同上	・スマートシティのグローバル事例紹介
5	同上	・スマートシティの課題解決案作成
6	同上	・スマートシティの課題解決案プレゼン
7	同上	・#1~6の復習
8	AIの基礎知識の体得	・AI概要
9	同上	・ヘッドウォータース概要 ・ヘッドウォータース事例紹介
10	同上	・AIの課題解決案作成
11	同上	・AIの課題解決案プレゼン
12	同上	。#8~11の復習
13	-	・後期の総復習
14	-	・期末試験
15	-	・期末試験の振り返り

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	本教員は外資系コンサルティング企業にてビジネス・IT戦略・業務改革支援等を経験しており、経験に基づく講義を展開する

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	経営戦略Ⅱ（DB）		(TDB129)
講義名（コード）	経営戦略Ⅱ（DB）		(TDB129)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石坂　尚	時間数	30
成績評価教員	石坂　尚	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	アントレプレナーやイントレプレナーを目指すのに必要な知識を身につけます
全体の内容と概要	実社会に出たとき、起業を考えるときに必要知識を身につけます
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。			
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	新事業、新製品の成立ちを理解する	新事業を考えるフレームワーク
2	VPCを理解する	ビジネスモデルを考える①～顧客価値を定義する
3		（課題）
4	BMCを理解する	ビジネスモデルを考える②～ビジネスモデルキャンバス
5	売上を計算する過程を理解する	事業を数字にしてみる①
6		（課題）
7	損益を理解する	事業を数字にしてみる②
8	キャッシュフローを理解する	会社を持続するのにいくら必要？
9		（課題）
10	経営に最低限必要な 決算書の読み方を理解する	4つの計算書類①（貸借対照表/損益計算書/CF計算書）
11	経営に最低限必要な 決算書の読み方を理解する	4つの計算書類②（貸借対照表/損益計算書/CF計算書）
12	投資の有効性の計算方法を理解する	投資の経済計算（回収期間法、NPV法）
13	復習	後期の復習
14	期末試験	後期試験
15	期末試験解説	試験の解説

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	一気通貫教科書(PDF)
備考	・本教員は、日本の大手メーカーにて、プロダクトマーケティング、プロダクトプランニングに従事。中小企業支援機関、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティングⅡ（DB）		(TDB131)
講義名（コード）	マーケティングⅡ（DB）		(TDB131)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石坂　尚	時間数	30
成績評価教員	石坂　尚	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティングの基礎を理解し、実社会に出たときに応用できる知識を習得します
全体の内容と概要	マーケティングの4Pを中心に実社会ではどのように使われているのかを示しながら理解します
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	マーケティングを「感覚」ではなく「理論」で身につけること

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。			
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	製品戦略の基本を理解する①	４_「製品戦略」のポイントとは何か？①
2	製品戦略の基本を理解する②	４_「製品戦略」のポイントとは何か？②
3		（課題）
4	製品戦略の基本を理解する③	４_「製品戦略」のポイントとは何か？③
5	価格戦略の基本を理解する①	５_「価格戦略・流通戦略」のポイントとは何か？①
6		（課題）
7	価格戦略の基本を理解する②	５_「価格戦略・流通戦略」のポイントとは何か？②
8	流通戦略の基本を理解する②	５_「価格戦略・流通戦略」のポイントとは何か？③
9		（課題）
10	コミュニケーションの概要を理解する①	６_「コミュニケーション戦略」のポイントとは？①
11	コミュニケーションの概要を理解する②	６_「コミュニケーション戦略」のポイントとは？②
12	従来のマーケティングとデジタルマーケティングの市街を理解する	７_マーケティングは「デジタル」の時代へ！
13	復習	後期の復習
14	期末試験	後期試験
15	期末試験解説	試験の解説

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	これだけは知っておきたい「マーケティング」の基本と常識
参考文献・資料等	授業のPDFは各時間用で作成
備考	・本教員は、日本の大手メーカーにて、プロダクトマーケティング、プロダクトプランニングに従事。中小企業支援機関、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マネーマネジメントⅡ		(TDB135)
講義名（コード）	マネーマネジメントⅡ		(TDB135)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	外部講師	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	中央銀行に長年携わり、欧州局長を努めた教員が講義する	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	金融基礎知識全般と関連テクノロジーについて、外部の専門家から最先端の動向・知識を学ぶ
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1		・シラバス説明 ・前期の振り返り
2		・起業と資本 ・株式とは何か？株価は何を表すか？
3		・企業の資金繰り ・企業価値
4		・会計アプリ概要
5		・外部資金調達 ・銀行借入と増資
6		・スタートアップ資金調達事例
7		・#1~6の振り返り
8		・リーマンショック分析①
9		・リーマンショック分析②
10		・暗号資産とブロックチェーン
11		・DAOと次世代金融
12		・資金調達のデジタル化
13		・#8~12の振り返り
14	-	・期末試験
15	-	・期末試験の振り返り

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	-

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	デジタル・マーケティングⅡ		(TDB137)
講義名（コード）	デジタル・マーケティングⅡ		(TDB137)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島涼輔・外部講師	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本教員は外資系コンサルティング企業にてビジネス･IT戦略･業務改革支援等を経験しており、経験に基づく講義を	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デジタル・マーケティングの内、プロモーション・広報領域の全体像と基礎を、体系的かつ実践的に理解する
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	前期の振り返り	・シラバス説明 ・前期の復習
2	広報・PR概要の体得	・イルミナコミュニケーションズ概要 ・最新のマーケティング基礎知識
3	同上	・ブランディングの基礎知識
4	同上	・カスタマージャーニー概要
5	同上	・広報・Public Relations概要
6	同上	・ニュースリリース概要・作成
7	同上	・ニュースリリースのクラス内プレゼン
8	広報・PRのガバナンスの体得	・日本パブリックリレーションズ協会概要
9	同上	・危機管理広報、SNSのインパクト
10	プレスリリース作成スキルの体得	・学園祭向けニュースリリース準備①
11	同上	・学園祭向けニュースリリース準備②
12	特定領域の顧客理解	・ハー・ストーリィ概要 ・女性市場のペルソナ分析
13	-	・#1~12の総復習
14	-	・期末試験
15	-	・期末試験の振り返り

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	-

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	デジタル・ビジネス・トランスフォーメーションⅡ		(TDB139)
講義名（コード）	デジタル・ビジネス・トランスフォーメーションⅡ		(TDB139)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島涼輔・外部講師	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本教員は外資系コンサルティング企業にてビジネス･IT戦略･業務改革支援等を経験しており、経験に基づく講義を	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デジタルビジネスの最新事例や技術、基礎知識を体系的に学習する
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	前期の振り返り	・シラバス説明 ・前期の振り返り
2	ビジネスモデル構築知識の体得	・ビジネスモデル構築基礎①
3	同上	・ビジネスモデル構築基礎②
4	最新技術の体得	・3Dプリンタ概要
5	同上	・Stratasys概要、最新事例紹介
6	同上	・3Dプリンタのビジネス活用アイディエーション
7	最新事例の体得	・情報工場概要 ・SEREND IPサービス紹介
8	同上	・#7振り返り・ディスカッション
9	同上	・Creww概要
10	同上	・スタートアップ、アントレプレナーシップ概要
11	同上	・スタートアップの成功事例・失敗事例
12	同上	・#9~11振り返り・ディスカッション
13	-	・後期の総復習
14	-	・期末試験
15	-	・期末試験の振り返り

5．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	-

学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	地球のアジェンダⅡ		（TDB145）
講義名（コード）	地球のアジェンダⅡ		（TDB145）
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	デジタルビジネス	単位数	2
授業担当者	居山	時間数	30
成績評価教員	居山	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務教員による授業である。	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	今後ビジネス界を含む社会全体で取り組むべき最も大きな課題、地球温暖化に関わる社会課題について全体像を理解する。それを解決、もしくは軽減するための知恵とビジネスモデルについて調査、考察、仮説設定を行う。地球のアジェンダに関わる社会課題の認識をふかめるとともに、その軽減につながるアイデアをデジタルの技術を活かして構想する
全体の内容と概要	SDGs全般、地球温暖化、ごみ、飢餓、水、生物多様性、ジェンダー、などの社会課題の理解と改善・解決策の考察
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）

成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	後期授業の目的理解	SDGs 全体像と地球のアジェンダ 前期のReview 今期のSDGsテーマ選定
2	グループ別テーマ選定の調査と議論	今期のSDGsテーマ選定 社会課題の抽出
3	SDGs世界の取り組み状況の理解	地球温暖化　生物多様性　絶滅危惧種　水産資源問題
4		SDGs取り組み事例 世界の状況
5	グループ別テーマについて調査とまとめのグループワーク	SDGsのテーマ別　Group Work 1 実現のための施策　個人と企業 SDGsとESG
6	排出量取引の仕組み理解	排出量取引の仕組みとトレードログソリューション
7	ジェンダーをめぐる問題に関連して具体的社会課題の実例を知る	地球のアジェンダ ８：　ジェンダーをめぐる問題 ジェンダー平等　女性活躍推進　少子化対策
8	グループ別テーマについて提案まとめのグループワーク	SDGsのテーマ別　Group Work 2 実現のための施策　個人と企業 SDGsとESG
9		学園祭
10	提案の発表	SDGsのテーマ別　Group Work 3 実現のための施策　個人と企業 Venture Pitch 審査
11	提案の発表	SDGsのテーマ別　Group Work 4 グループまとめ　Venture Pitch 審査
12	Venture Pitchの振り返り	Venture Pitch振り返り 課題提示
13	後期全体の振り返り	年間全体振り返り 課題提示
14	試験	期末試験
15	試験の振り返り	追試　＋　試験振り返り

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	